
カップ麺

3007

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カップ麺

【Nコード】

N1835C

【作者名】

3007

【あらすじ】

いつも晩飯になると、テーブルの上にはカップ麺しか無かった。

(前書き)

初めて短編を書きました。結構短いので呼んで下さい

「3分待てよ」

俺が小3の頃から毎日、晩飯になるとテーブルの上にはカップ麺しか無かった

「悪いな。父さん料理出来ないからさ」

小さい頃から毎日の様に聞いたセリフ。

俺には母親が居ない。正確に言うと、小3までいたが、事故により居なくなった。それから毎日の様に晩飯にはカップ麺が出てきた

俺の名前は山中翔太。

つい最近20になったばかりだ。今はシェフになるためにレストランで修業している。さっき母親が居ないと言ったが、1年前に親父も過労死で亡くした。

今は天国に居る親父の為にシェフにならうと必死だ。親父が死ぬまでは喧嘩をしていて、声すら聞いていなかった。

しかし、葬式の時に親父の仲間と言われた一言で俺は心を変えた。

「お前の親父が酔った時に言ってたぞ。アイツにはガキの頃から、ろくに飯を食わせてやれなかった。だから仕方ないんだって。一度

で良いから、アイツにおいしいパスタを作ってやりたいって」

俺は、それを聞いた時、涙が止まらなかった。

「何で目の前で言わねえんだよ！」

俺は親父が隠していた事の怒りと、それに気付かず、ガキみたいに反抗していた自分を情けなく思い、ずっと泣け叫んだ。

それから、家に帰り親父の部屋を色々と探した。すると、段ボールの中に料理本が山積みになっているのを見つけた。

中身を見ると、パスタの所だけにラインメーカーや付箋紙が貼ってあった。

俺はそれを見て又、号泣した。

それまでは、カップ麺しか食べせ無かった、親父に反抗するためにシェフを目指したが、今は頑張っても何一つ作れなかった不器用な親父の為にシェフになると決めた。

親父。シェフになったらおいしいパスタ食わせてやるからな。
それまで3年待ってな。

(後書き)

御朗読アリガトウございます。
の方を是非書いて下さい。

改善点や評価

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1835c/>

カップ麺

2010年10月17日02時26分発行